

青森県ボールパーク整備基本計画（案）概要版

交通・地域社会部
地域交通・連携課

1. ボールパーク整備を取り巻く環境

■背景

- ① 県営野球場（1967年開場）の老朽化
- ② 県営スケート場の一体整備
- ③ 国におけるスポーツを核とした多角的な施策の展開
- ④ 県民の健康づくりに向けた機運の醸成と環境の整備
- ⑤ 若者の県内定着促進に向けた賑わいづくり

■ボーラパーク整備検討会議（R6.8～7.3）

コンセプト

『季節に応じて日常的に集い楽しめるボールパーク』

1. 県民が思い思いに楽しめる
2. 野球を楽しめる
3. 多様なスポーツを楽しめる
4. 普段づかいを楽しめる
5. 青森らしさを楽しめる

〔整備予定地の位置概要〕



2. 基本方針

- 整備予定地：青森県青森市安田地内
- ・三内丸山遺跡、県立美術館近く
 - ・青森IC3分、JR青森駅からバス約17分、JR新青森駅からバス約11分
 - ・徒歩圏内人口約3.3万人
 - ・埋蔵文化財包蔵地に一部該当（要調査）
 - ・三内丸山遺跡内からの景観に対する配慮が必要

■ゾーニングイメージ

整備区域を**複合施設エリア**と**賑わい創出エリア**に区分し、ボールパーク全体として賑わいと交流の創出を目指す。

【複合施設エリア】

野球場、スケート場、屋内運動場、防災備蓄倉庫、広場で構成するエリア

【賑わい創出エリア】

三内丸山遺跡、県立美術館とボールパークを繋ぐ屋外空間として、民間事業者の創意工夫を活かした収益施設を誘致し、ボールパークの魅力をより高めるエリア

〔敷地概要〕



〔ゾーニングイメージ〕



青森県ボールパーク整備基本計画（案）概要版

3. 整備方針

複合施設エリア：①～⑤

	整備内容	
①野球場	収容人数	合計：15,000人程度（うち固定席：7,500席）
	グラウンド	両翼100m以上・中堅122m以上など公認野球規則に則ったサイズ、人工芝
	主な機能	オープンコンコース、バラエティシート、大型映像装置、屋内練習場、ラウンジなど
②スケート場	主な仕様	リンク規格：60m×30m、利用期間：季節型
	対応競技	フィギュアスケート、アイスホッケー
③屋内運動場	主な仕様	平面サイズ50m×50m、高さ15m以上の空間を備えた運動場
	対応競技	フットサル、バドミントン、バレーボール、クライミング（ボルダリング・リード）、Tボールなど
④防災備蓄倉庫	主な機能	パレット倉庫（移動式保管ラック（ネステナー）利用）
⑤広場	主な機能	ボールパーク複合施設と一緒に振わいの創出が可能な屋外空間、スノーパーク（スキー・ソリ遊び）、こどもを夢中にする遊具を広場に設置

振わい創出エリア：⑥

- 三内丸山遺跡、県立美術館とボールパークを繋ぐ屋外空間として、民間事業者の創意工夫を活かした収益施設を誘致し、ボールパークの魅力をより高めるエリアとして整備
- 現県営野球場は複合施設が完成するまで使用

駐車場：⑦

- 1,600台（整備区域内+臨時駐車場）以上を整備

【イメージ写真】



青森県ボールパーク整備基本計画（案）概要版

3. 整備方針

■配置計画図



青森県ボールパーク整備基本計画（案）概要版

4. 想定される事業スキーム

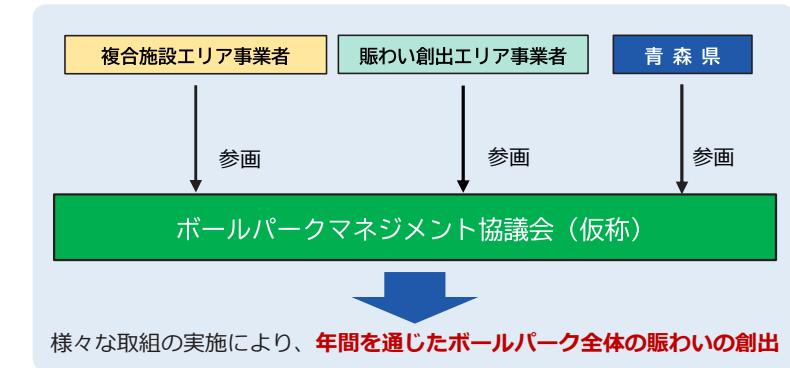
- ・ボールパークの整備・運営にあたっては、**民間事業者の創意工夫・ノウハウや技術を導入することで、質の高い公共サービスを提供すること**を目標。
- ・具体的な事業手法としては、下記のとおりとすることを基本とし、詳細は今後の検討・精査を経て決定。
- ・なお、本事業では整備スケジュールや機能の特性を勘案し、複合施設エリア・賑わい創出エリアに事業を区分。**ボールパーク全体の円滑な運営のため、「ボールパークマネジメント協議会（仮称）**を設立。両事業間の連携とともに、**両エリア一体となったプロモーション・イベントの実施や、芸術・遺跡区域を含む回遊性向上等の取組を通じて、年間を通じたボールパーク全体の賑わいの創出**を促進。

■事業手法

対象施設		事業手法	事業開始時期
複合施設 エリア	野球場	複合施設エリア内の設計（基本・実施）・建設・維持管理・運営について、PFI（BTO）方式の導入を想定	令和10年度～
	スケート場		
	屋内運動場		
	防災備蓄倉庫		
	広場		
	駐車場（※）		
賑わい創出エリア		Park-PFIを含む事業方式の導入を検討	令和14年度～

（※）複合施設エリア内の駐車場

■ボールパークマネジメント協議会（仮称）のイメージ



5. 整備スケジュール

- ・整備スケジュールは、令和13年冬のスケート場先行オープン、野球場・屋内運動場等は令和15年春のオープン、ボールパーク全体は令和18年度以降のオープンを目指して進めています。

